

「温泉文化大使」に聞く

温泉・旅館関係者や、温泉地を有する都道府県などは、「温泉文化」のユネスコ無形文化遺産への登録を目指している。「温泉文化」ユネスコ無形文化遺産全国推進協議会は、登録への機運醸成に向けて、各界の有志を「温泉文化大使」に任命している。登録の実現を応援している観光経済新聞は、「温泉文化大使」に任命されている旅館・ホテル経営者、女将らにインタビュー。「あなたが思う『温泉文化』とは」「『温泉文化』継承の課題は」、そして、登録実現に向けた抱負について聞いた。

大阪屋 ひいな湯

和歌山県・加太淡嶋温泉

代表取締役社長 利光 伸彦氏

利光社長は和歌山県旅館ホテル生活衛生同業組合の理事長を務めている。和歌山県における「温泉文化」のユネスコ無形文化遺産登録への活動状況は、登録実現に向けて政府にユネスコへの提案を訴える署名活動を進めている。全旅館が事務局を担う全国推進協議会では、全国の温泉地や行政、企業、団体などから100万筆の署名を集めることを目標としている。和歌山県では、幅広い関係者を巻き込み、すでに2万筆以上の署名を集めたところだ。

温泉文化広める貴重な機会 地元の良さ伝える宿の力に



ユネスコ登録を自分事と捉えていないから。そこで和歌山県では、宿泊事業者にとどまらず県内の幅広い関係者に署名を呼び掛ける際、独自の文書を作成した。その文書には和歌山県における登録の意義、和歌山県としてのメリットを示し、自分事として考えてもらうよう工夫した。和歌山県における登録の意義、メリットとは。ユネスコ登録の目的は、あくまで日本固有の文化である「温

泉文化」を守り、未来とつなぐ。この地を舞台とする小栗判官の伝説は、浄瑠璃や歌舞伎の演目として有名で、「よみがえりの地」と和歌山県を象徴している。古くから温泉が人々の心身を癒やしてきた証であり、温泉は暮らしや生業、芸能などと密接な関係にある文化であることが分かる。この他にも和歌山県には、川原を掘れば湯が湧き出す川湯温泉、大分県、鹿児島県、熊本県に次ぐ源泉数の多さだ。しかし、全国的にはあまり知られていないあるホテル浦島の忘帰洞、白

引き継いでいくには、国内だけでなく、世界に知ってもらう必要がある。「温泉文化」のユネスコ登録が実現すれば、和歌山県が日本でも有数の温泉県であることに、世界の注目が集まるようになるかもしれない。他県でもそうした可能性があるのでも、それぞれの地域の温泉に関する歴史や物語を深掘りし、新発見、再認識することで機運が盛り上がり、署名活動の輪が広がる。全国的には温泉旅館の倒産、廃業なども相次ぎ、温泉文化の次代への継承には課題が多いのが実状だ。地方を中心に人口減少や少子高齢化が進んでいる。人手不足や後継者不在に悩む温泉旅館は少なくない。温泉旅館は家業的な経営が多い。それゆえに、途切れることなく経営を続けることも難しくなっている。しかし、ライフスタイルの変化やコロナ禍などもあって、経営環境は厳しい。人材の育成・確保、事業継承、M&Aなど、多くの課題に温泉旅館は直面している。当館も2020年、海に沈む夕陽を望む大阪屋ひいな湯の歴史があるが、私

「温泉文化大使」として、既に和歌山県にも協力を仰ぎ、多くの署名を集めたい。最後に一言。温泉文化をわれわれ関係者が守り、育てることが重要だが、一般の方々にもこの温泉文化について、さらに興味を持っていただきたい。そのためにも、協議会（「温泉文化」ユネスコ無形文化遺産全国推進協議会）からの情報発信も、要望があればうちのSNSで協力した。温泉文化のマークが作ったTシャツやピンバッジを販売しているが、その宣伝にも協力する（笑）。

鳥羽ビューホテル花真珠

三重県・鳥羽温泉郷

女将 迫間 優子氏

迫間さんが考える「温泉文化」とは。温泉そのものに限らず、地域の歴史や風習、そこで生まれる人と人との交流。これら全てが温泉文化だと思う。温泉地や旅館は癒やしのある場であり、コミュニティ形成の場。お客さま同士、地元の人同士、お客さまと地元の人たちを結び役割を果たしてきた。これらも温泉文化だと思っている。このような伝統や価値を未来へつなげていきたい。地元の温泉文化と、その

歴史、風習、人と人との交流 伝統、価値を未来へつなぐ



温泉文化を次世代に継承する上で課題は。一つは、入浴のマナーを伝えること。昔の人が自然にしていたことも、温泉にそれほど親しんでいない人は、それを知らずに入浴することがある。若い人々でも、温泉好きの人が結構多い。ただ、マナーを知らずに入り、ほかのお客さまに迷惑をかけていることがある。かけ湯をしてから湯船に入るようにするなど。当館は大

浴場にポスターを掲示している。昔は銭湯を利用する一般家庭もあったが、今はほとんどが家族風呂だ。啓蒙活動とともに、入浴マナーについて教育をする人も必要ではないか。今はインバウンドが増えている。外国人のお客さまによるトラブルは。鳥羽はまだ外国人のお客さまがそれほど多くない。大阪や京都などには、温泉文化の発信も必要ではないか。SNSがあるので、それを使った各国の情報発信も必要ではないか。海外の人たちは「文化」というものを大切にしている。温泉が単なるリラクゼーション施設ではなく、日本の文化の一部だ、というところも伝えたいのではないか。ユネスコ登録の意義を改めて伺いたい。世界の人たちに認知してもらえれば、観光の機会も増える絶好の機会だ。「和食」

がその最たる例。和食の料理人が世界の各地で引く手あまたと聞か。さらに昨年暮れに登録された「伝統的醸造酒」。日本のお酒が世界から注目されるようになった。温泉もこれらに続いてほしい。温泉はインバウンドを誘致する上で有力なコンテンツとされている。QRコードは客室にも置くことで、ホッペのようなものを自作し、公式のもの

があれはありがたい。地元の旅館組合で理事長をしているので、ほかの組合員さんにも協力を仰ぎ、多くの署名を集めたい。最後に一言。温泉文化をわれわれ関係者が守り、育てることが重要だが、一般の方々にもこの温泉文化について、さらに興味を持っていただきたい。そのためにも、協議会（「温泉文化」ユネスコ無形文化遺産全国推進協議会）からの情報発信も、要望があればうちのSNSで協力した。温泉文化のマークが作ったTシャツやピンバッジを販売しているが、その宣伝にも協力する（笑）。



鳥羽ビューホテル花真珠の絶景露天風呂「遊湯」

祝 観光経済新聞創刊75周年 祝

1950-2025 75th ANNIVERSARY

JTB JTBPublishing 読売旅行 読売旅行協力会 UBS 株式会社JR東日本びゅうツーリズム&セールス T-LIFE ホールディングス株式会社 T-LIFE パートナース株式会社

FUJITA KANKO TOKYU HOTELS JR東日本ホテルズ 三菱地所ホテルズ&リゾート株式会社

三井不動産ホテルマネジメント MITSUI FUDOSAN HOTEL MANAGEMENT Iwasaki Hotels HMI HOTEL GROUP hmihotelgroup.com THE ASCOTT LIMITED A Member of CapitalLand Investment

Trip.com Group JMA 一般社団法人日本能率協会 tap idol SOFTWARE Co. AQUAS アクアス株式会社 JAPAN HOTEL APPRAISAL